

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

ブライダルリフォーム

「今日もプライダルリフォームです」と言いながら、出かけたリフォームブライダナーがいた。

初めて聞いたときには、「それ何？」と思ったのだが、結婚をするにあたり、リフォームをされる方が多いのだという。特に多いケースが、親の持っていたマンション、あるいはお婆様が住んでいた家のリフォームだ。

お婆様はすでに施設に入所され、家に戻ることのない状態だが、ご存命のうちには家の処分は考えられないし、空き家管理は大変だ。そんな時に、孫世代が結婚を機に住み始める。親がリフォームの出資者の場合が多く、生活に余裕があり、穏やかな感じのいい若夫婦との打ち合わせは、リフォームブライダナーの仕事もスムーズに進む。

でもなぜ、親やお婆様は、お持ちの物件を売却して、結婚生活への資金提供だけにしないのだろうか？

それは思いついていないかもしれない。築四〇年を越える物件で思う金額では売れないという理由があるのだろう。あるいは、お婆

様は施設にいても、いつか帰れる家があるという安心感を残しておきたいからなのかもしれない。

しかし、中には「結婚に結びつけるためのリフォーム話かな？」とも思われる、まだ結婚の約束がファジーな感じのお客様もいるとかいないとか……。リフォームが、縁結びに一役買うことになるかもしれない。

縁結びといえば、先日、出雲大社に行った。私の家族を含め、親戚縁者に結婚を考えている人はいないのだが、せっかくお参りに来たのだから、気になっている職場や知人のお願いをしてきた。あまりに長いお願い時間に、同伴者は、「いったい何人のお願いしてるの？ そのお賽銭で何人もお願いされ、神様は困っている」と言われた。出雲大社は二拝四拍手一拝の作法で拝礼する。二拝二拍手一拝に慣れているため、なかなかうまくいかず、願いがかなわないと思いつつも一からやり直した。

伊勢神宮と出雲大社。どちらも神々しく素晴らしいと思うが、松江の知人は、「比較にならない。比較す

ることがおかしい。まず大きさが違うだろう」と言うのだ。確かに神殿は、驚くほど出雲大社が大きい。でも伊勢神宮は、全体面積がパリや東京都世田谷区に匹敵する。また比べることはありそうで、その方の言い分が大人げないように思ったのだが、きっと郷里への熱い思いからだろうと、黙って「そうですわね」と言うようにうなずいた。

遷宮とは、ご神体を本来の場所から移し、社殿を修造し再びご鎮座いただく、「原点復帰」の、はじまりのとき。に立ち返るという壮大なよみがえりの物語だとか。遷座によってさらに力が増した神様にお参りしたことで自分の原点を見つめ直し、生まれ変わる力や新しいご縁を授かることができることを念ずることが大事なようだ。

出雲大社近くの日御碕灯台も素晴らしく、ここは石造灯台として日本一の高さを誇る。大きいものや高いものを眺め、六〇年に一回の式年遷宮に訪れることができたことを感謝し、プライダルリフォームをされたお客様の幸せを願った。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。」